

## 第3回若狭地区高校教育懇談会

### 協 議 資 料

#### 【目 次】

I	第2回若狭地区高校教育懇談会における主な意見	……	P	1
II	志望者・定員・入学者数の推移	……………	P	2
III	小浜水産高校専攻科について	……………	P	5
IV	小浜水産高校実習船について	……………	P	7
V	若狭地区の県立高校再編整備の方向性について	………	P	9
VI	今後の水産海洋教育の在り方について	……………	P	11

# I 第2回若狭地区高校教育懇談会における主な意見

## 1 再編整備計画について

- 地域連携や地域貢献ができる高校づくりを進めてほしい。
- 授業料の無償化は、高校の義務教育化であり、高校進学希望の生徒は、原則全員希望どおりに入学させるべき。統合する場合には、原則全員が希望通り入学できるようなメリットが実感されないといけないのではないか。
- 志望が多い学科は定員を増やし、少ない学科は20、30名でもいいから残して、良い人材を育成すべき。国がお金を出さないなら、難しいかもしれないが、県が独自に補完すべき。また、標準法の基準を柔軟にするよう国に求めていくべき。
- 本校、分校という言葉は使わずに、〇〇キャンパスという呼び方もあるように、配慮が必要。
- 混成した教育の方が伸びる場合もあり、高校では英才教育の必要はない。この際、入試、推薦などの方法を見直して、学校再編にも生かしていくことも検討すべき。

## 2 職業系専門学科について

- 水産高校について、県立大学の附属高校的な要素をもつ発想ができないか。
- カリキュラムはできるだけ自由で、幅広い、柔軟な選択制が良い。
- 専攻科を充実させ、他府県からの高卒者も入ってくれる、大学からみれば予科実科という形を取り込んで、数十名なりの定員を満たしていくことができないか。
- 船の利用については、近隣の石川県、京都府等と一緒に利用する、あるいは県立大学も利用するという考え方もあるのでないか。
- 職業系の専門学科の先生は、現場の厳しさを十分体得して、生徒の教育に当たるべき。
- 今は成績順に学校を割り振りされているだけ。職業系高校は、あまり専門化しないで、普通教育に力を入れるべき。
- 職業系高校で、資格をとって就職できるような魅力ある学科を作ってほしい。
- 職業系高校時代に、大学進学後、学習についていけるだけの最低の学力をつける方策を考えてほしい。
- AO入試や推薦入試で進学するとなると、一般入試の必要性がなく、英・国・数などの一般教科のニーズは多くないと思うし、水産で入った後に農業へ転換する生徒もどれだけいるか疑問である。
- 拠点校の配置や専門性の向上など、水産教育の中に見えてこない。
- 総合選択制で、例えば全ての生徒が普通科目を選択すれば、2年以降に進学専門のクラスには入れるのか。

## 3 若狭地区の県立高校について

- 若狭地区の普通科の定員割合を嶺北並みにしてもらいたい。
- 若狭高校に特進コースを設けて、若狭地区から難関大学に行ける環境を作ってもらいたい。
- 嶺南に普通科の単独校が1校もないので、考えてほしい。
- 普通科の学級数を維持しようとする、どこかを減らさないといけないが、職業系の2校は維持できるのか。
- 総合高校にして、部活もいろいろ選択できる、水産の勉強もできる状況を作るのが再編で大事な問題。
- 環境問題には、林業の問題が非常に大事なので、コースでいいから検討したらどうか。
- 私立や嶺北の県立高校も部活動がメインで引きがきている。仲間がいて、喜びがあるという点では、部活動というのは子どもたちにとって非常に大きなポイントかと思う。
- 生徒は、県外や嶺北の高校へ行って、自分を試してみたいと思っていて、その課題が一番大きい。

## Ⅱ 志望者・定員・入学者数の推移(全日制)

### 1 若狭高校

#### (1)進路志望調査結果による志望者数と入学定員数の推移

学 科	区分	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	備 考
普通科	志望者	305	275	297	276	320	263	274	288	進路志望調査結果(前年9月) 当年4月現在
	定 員	230	216	228	228	220	210	193	228	
	割 合	132.6%	127.3%	130.3%	121.1%	145.5%	125.2%	142.0%	126.3%	
理数科	志望者	22	21	23	27	25	37	23	46	
	定 員	40	40	38	35	35	35	38	38	
	割 合	55.0%	52.5%	60.5%	77.1%	71.4%	105.7%	60.5%	121.1%	
商業科	志望者	118	143	143	105	95	101	87	83	
	定 員	76	72	72	70	70	72	70	74	
	割 合	155.3%	198.6%	198.6%	150.0%	135.7%	140.3%	124.3%	112.2%	
計	志望者	445	439	463	408	440	401	384	417	
	定 員	346	328	338	333	325	317	301	340	
	割 合	128.6%	133.8%	137.0%	122.5%	135.4%	126.5%	127.6%	122.6%	

#### (2)入学定員数と入学者数の推移

学 科	区分	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	備 考
普通	定 員	230	216	228	228	220	210	193	228	
	入学者	232	217	228	230	220	209	193	228	
	割 合	100.9%	100.5%	100.0%	100.9%	100.0%	99.5%	100.0%	100.0%	
理数	定 員	40	40	38	35	35	35	38	38	
	入学者	40	38	38	34	35	35	38	38	
	割 合	100.0%	95.0%	100.0%	97.1%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
商業 (商業)	定 員	38	36	36	35	35	36	35	37	
	入学者	38	36	36	35	35	36	35	36	
	割 合	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	97.3%	
情報処理 (商業)	定 員	38	36	36	35	35	36	35	37	
	入学者	39	36	36	36	36	36	35	37	
	割 合	102.6%	100.0%	100.0%	102.9%	102.9%	100.0%	100.0%	100.0%	
計	定 員	346	328	338	333	325	317	301	340	
	入学者	349	327	338	335	326	316	301	339	
	割 合	100.9%	99.7%	100.0%	100.6%	100.3%	99.7%	100.0%	99.7%	

## 2 若狭東高校

### (1) 進路志望調査結果による志望者数と入学定員数の推移

学 科	区 分	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	備 考
普通科	志望者	44	43	56	36	40	44	34	44	進路志望調査結果(前年9月) 当年4月現在
	定 員	77	72	72	60	60	60	60	62	
	割 合	57.1%	59.7%	77.8%	60.0%	66.7%	73.3%	56.7%	71.0%	
農業科	志望者	76	54	61	69	52	79	86	68	
	定 員	72	70	70	66	66	72	70	72	
	割 合	105.6%	77.1%	87.1%	104.5%	78.8%	109.7%	122.9%	94.4%	
工業科	志望者	30	53	30	39	23	40	40	45	
	定 員	70	70	70	60	60	60	60	66	
	割 合	42.9%	75.7%	42.9%	65.0%	38.3%	66.7%	66.7%	68.2%	
計	志望者	150	150	147	144	115	163	160	157	
	定 員	219	212	212	186	186	192	190	200	
	割 合	68.5%	70.8%	69.3%	77.4%	61.8%	84.9%	84.2%	78.5%	

### (2) 入学定員数と入学者数の推移

学 科	区 分	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	備 考
普通	定 員	77	72	72	60	60	60	60	62	
	入学者	77	72	72	57	60	50	61	61	
	割 合	100.0%	100.0%	100.0%	95.0%	100.0%	83.3%	101.7%	98.4%	
産業技術 (農業)	定 員	36	35	35	33	33	36	35	36	
	入学者	36	35	35	33	33	35	35	36	
	割 合	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	97.2%	100.0%	100.0%	
生活科学 (農業)	定 員	36	35	35	33	33	36	35	36	
	入学者	36	35	35	32	34	35	35	36	
	割 合	100.0%	100.0%	100.0%	97.0%	103.0%	97.2%	100.0%	100.0%	
電子機械 (工業)	定 員	35	35	35	30	30	30	30	33	
	入学者	35	38	33	30	30	28	30	33	
	割 合	100.0%	108.6%	94.3%	100.0%	100.0%	93.3%	100.0%	100.0%	
電気 (工業)	定 員	35	35	35	30	30	30	30	33	
	入学者	17	35	25	20	30	28	30	33	
	割 合	48.6%	100.0%	71.4%	66.7%	100.0%	93.3%	100.0%	100.0%	
計	定 員	219	212	212	186	186	192	190	200	
	入学者	201	215	200	172	187	176	191	199	
	割 合	91.8%	101.4%	94.3%	92.5%	100.5%	91.7%	100.5%	99.5%	

### 3 小浜水産高校

#### (1)進路志望調査結果による志望者数と入学定員数の推移

学 科	区 分	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	備 考
水産科	志望者	38	29	36	33	52	41	47	48	進路志望調査(前年9月)
	定 員	96	94	92	90	90	90	90	90	当年4月現在
	割 合	39.6%	30.9%	39.1%	36.7%	57.8%	45.6%	52.2%	53.3%	

#### (2)入学定員数と入学者数の推移

学 科	区 分	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	備 考
海洋科学 (水産)	定 員	36	34	32	30	30	30	30	30	
	入学者	27	34	32	23	30	26	30	30	
	割 合	75.0%	100.0%	100.0%	76.7%	100.0%	86.7%	100.0%	100.0%	
食品工業 (水産)	定 員	30	30	30	30	30	30	30	30	
	入学者	29	25	29	22	30	30	26	25	
	割 合	96.7%	83.3%	96.7%	73.3%	100.0%	100.0%	86.7%	83.3%	
水産経済 (水産)	定 員	30	30	30	30	30	30	30	30	
	入学者	16	24	30	18	30	29	23	22	
	割 合	53.3%	80.0%	100.0%	60.0%	100.0%	96.7%	76.7%	73.3%	
計	定 員	96	94	92	90	90	90	90	90	
	入学者	72	83	91	63	90	85	79	77	
	割 合	75.0%	88.3%	98.9%	70.0%	100.0%	94.4%	87.8%	85.6%	

### Ⅲ 小浜水産高校専攻科について

#### 1 入学状況（過去10年間）

年 度	1 3	1 4	1 5	1 6	1 7	1 8	1 9	2 0	2 1	2 2
定 員	約 10	約 10	約 10	約 10	約 10	約 10	約 10	約 10	約 10	約 10
入学者数	3	2	3	3	3	1	5	3	1	4

#### 2 就職状況（過去5年間）

年 度	1 7	1 8	1 9	2 0	2 1
卒業者数	3	3	1	5	3
水産関連業種への 就職者数	1	3	1	5	3

#### 3 専攻科の教育体制

- (1) 教員数： 6名（うち非常勤2名）
- (2) 船員数： 20名（雲龍丸）

#### 4 専攻科の教育内容

- (1) 海洋科学科マリンテクノコース卒業後、船舶運行に関する専門知識、高度な技能を修得
- (2) 主な学習内容
  - ・ 航 海：各種航法、航海計器の適切な運用等、船舶の安全運行について学習
  - ・ 航海計器：航海計器に関する知識と技術について学習
  - ・ 電子航法：各種電波計器の原理、取扱方法等について学習
  - ・ 操 船：船舶の操縦性能、一般運用、特殊運用について学習
  - ・ 雲龍丸での遠洋航海実習（15ヶ月）：海洋観測、マグロ延縄実習、沿岸航海実習等
- (3) 主な取得資格
  - ・ 3級海技士：免許取得に必要な乗船履歴を取得
  - ・ 船舶衛生管理者：国家試験免除

水産系高校の専攻科設置状況(全国)

【平成21年6月現在】

No.	都道府県	学校名	学科名	学級数	定員	生徒数			備考
						1年	2年	計	
1	北海道	小樽水産高校	漁業科	1	10	3	6	9	
			情報通信科	1	10	10	5	15	
2	北海道	函館水産高校	機関科	1	10	5	8	13	
3	青森県	八戸水産高校	漁業科	1	10	0	5	5	
			機関科	1	10	3	2	5	
4	岩手県	宮古水産高校	専攻科	1	15	2	7	9	
5	宮城県	宮城県水産高校	海洋技術科	1	10	6	8	14	
6	宮城県	気仙沼向洋高校	漁業科	1	10	4	3	7	
			無線科	1	30	1	0	1	
7	秋田県	男鹿海洋高校	機関専攻科	1	5	2	5	7	
8	福島県	いわき海星高校	海洋科	1	10	4	9	13	
			無線通信科	1	10	10	9	19	
			機関科	1	10	5	6	11	
9	茨城県	海洋高校	遠洋漁業科	1	10	4	5	9	
			機関科	1	10	5	3	8	
10	千葉県	館山総合高校	漁業コース	1	5	1	4	5	
			機関コース	1	5	4	1	5	
11	神奈川県	海洋科学高校	漁業生産科	1	10	10	7	17	
			水産工学科	1	10	8	3	11	
			情報通信科	1	10	3	9	12	
12	石川県	能都北辰高校	水産科	1	5	0	0	0	H21能登高校に統合。現在の2、3年生が在学中は募集継続
13	福井県	小浜水産高校	漁業科	1	10	1	3	4	
14	静岡県	焼津水産高校	航海工学科	1	15	13	8	21	
15	愛知県	三谷水産高校	海洋技術科航海コース	1	5	2	2	4	
			海洋技術科機関コース	1	5	2	1	3	
			海洋技術科情報通信コース	1	10	10	10	20	
16	三重県	水産高校	漁業専攻科	1	10	5	6	11	
			機関専攻科	1	10	3	4	7	
17	島根県	浜田水産高校	漁業科	1	5	3	5	8	
			機関科	1	5	2	2	4	
18	島根県	隠岐水産高校	漁業科	1	5	9	4	13	
			機関科	1	5	6	3	9	
19	山口県	水産高校	航海科	1	8	6	2	8	
			機関科	1	8	7	7	14	
20	香川県	多度津高校	漁業科	1	5	5	1	6	
			機関科	1	5	2	0	2	
21	愛媛県	宇和島水産高校	漁業科・機関科	1	10	6	3	9	
			水産増殖科	1	10	0	2	2	
22	高知県	高知海洋高校	航海専攻科	1	10	4	1	5	
			機関専攻科	1	10	1	1	2	
			情報通信専攻科	1	10 (廃科)		2	2	
23	福岡県	水産高校	漁業専攻	1	10	7	3	10	
			機関専攻	1	10	3	0	3	
24	長崎県	長崎鶴洋高校	漁業科	1	10 (廃科)		6	6	
25	大分県	海洋科学高校	海洋技術専攻科	1	若干名	2	7	9	
26	鹿児島県	鹿児島水産高校	海洋技術科	1	7	4	5	9	
			機関技術科	1	8	5	3	8	
			情報通信科	1	15	16	11	27	
27	沖縄県	沖縄水産高校	漁業科	1	10	10	10	20	
			機関科	1	10	8	7	15	
			無線通信科	1	15	9	3	12	

## IV 小浜水産高校実習船について

### 1 現在保有している実習船

船名（トン数）	年間使用 日 数	乗組 員数	生徒 定員	建造費	年間維持管理経費 （人件費、燃料費、 ドック経費等）	竣工後 の年数
雲龍丸（499 t）	約 7 か月	20 名	45 名	約 14 億 3 千万円	約 3 億円	16 年目
あおば（19 t）	約 4 か月	4 名	20 名	約 1 億 4 千万円	約 3 千万円	19 年目

【雲龍丸】

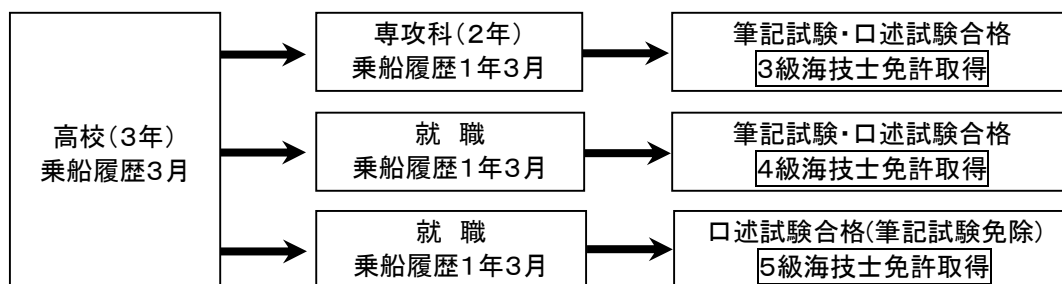


【あおば】



### 2 海技士免許取得条件

- ・ 海技士とは、海事従事者の中で大型船舶を操作する船舶職員。職種によって航海、機関、通信の3種類があり、船舶の大きさによって1～6級に区分。
- ・ 海技士免許取得には、筆記試験・口述試験のほか、一定の乗船履歴が必要。
- ・ 小浜水産高校では、高校3年間で5級海技士免許の筆記試験が免除となり、専攻科では3級海技士免許取得に必要な乗船履歴（1年6月）を取得。





### 3 他県の水産高校の動き

- ・ 富山県：再編整備による専攻科廃止に伴い、実習船を多目的利用（県民への開放等）【H20】
- ・ 石川県：再編整備による専攻科廃止に伴い、実習船の在り方を検討中【H21】
- ・ 島根県：大型1、中型1の2隻体制から、大型1隻（新たに建造）体制にシフト【H22】
- ・ 徳島県：大型1隻体制から、小型1隻（新たに建造）にシフト【H21】
- ・ 山口県、長崎県、福岡県：3県共同で大型船1隻を新たに建造【H22】
- ・ 山形県、兵庫県：中型船の建造を検討

#### 【他県の中型船建造事例】

トン数	竣工年	乗組員数	生徒定員	建造費	年間維持管理経費 (人件費、燃料費、 ドック経費等)
196 t	平成 18 年	10 名	22 名	約 7 億 8 千万円	約 1 億 3 千万円

## V 若狭地区の県立高校再編整備の方向性について

【方向性1】

【現行：平成22年度】総定員数630名(専攻科除く)(普通科：職業科＝52：48)

No.	高校名	学科名	1学年 当たりの 学級数	1学級 当たりの 生徒定員	備考
1	若狭高校	普通科	6	38	商業系
		理数科	1	38	
		商業科	1	37	
		情報処理科	1	37	
2	若狭東高校	普通科	2	31	農業系
		産業技術科	1	36	
		生活科学科	1	36	
		電子機械科	1	33	工業系
		電気科	1	33	
3	小浜水産高校	海洋科学科	1	30	水産系
		食品工業科	1	30	
		水産経済科	1	30	
		(専攻科)	1	約10)	
計			18	630	



【新高校設置後：平成25年度】総定員数514名(普通科：職業科＝65：35)

No.	高校名	学科名	1学年 当たりの 学級数	1学級 当たりの 生徒定員	備考
1	若狭高校	普通科	8	37	
		理数科	1	38	
2	総合産業高校	生産技術科(仮称)	1	30	農業、水産系
		海洋・バイオ科(仮称)	1	30	
		食文化創造科(仮称)	1	30	
		機械科	1	30	工業系
		電気科	1	30	
		ビジネス創造科(仮称)	1	30	商業系
計			15	514	



【将来見込み：平成36年度】総定員数450名(普通科：職業科＝60：40)

No.	高校名	学科名	1学年 当たりの 学級数	1学級 当たりの 生徒定員	備考
1	若狭高校	普通科	6	39	
		理数科	1	36	
2	総合産業高校	生産技術科(仮称)	1	30	農業、水産系
		海洋・バイオ科(仮称)	1	30	
		食文化創造科(仮称)	1	30	
		機械科	1	30	工業系
		電気科	1	30	
		ビジネス創造科(仮称)	1	30	商業系
計			13	450	

【方向性2】

【現行：平成22年度】総定員数630名(専攻科除く)(普通科：職業科＝52：48)

No.	高校名	学科名	1学年 当たりの 学級数	1学級 当たりの 生徒定員	備考
1	若狭高校	普通科	6	38	商業系
		理数科	1	38	
		商業科	1	37	
		情報処理科	1	37	
2	若狭東高校	普通科	2	31	農業系
		産業技術科	1	36	
		生活科学科	1	36	
		電子機械科	1	33	工業系
		電気科	1	33	
3	小浜水産高校	海洋科学科	1	31	水産系
		食品工業科	1	31	
		水産経済科	1	31	
		(専攻科)	1	約10)	
計			18	630	



【将来見込み：平成25年度】総定員数514名(普通科：職業科＝47：53)

No.	高校名	学科名	1学年 当たりの 学級数	1学級 当たりの 生徒定員	備考
1	若狭高校	普通科	5	30	商業系
		理数科	1	34	
		商業科	1	30	
		情報処理科	1	30	
2	若狭東高校	普通科	2	30	農業系
		産業技術科	1	30	
		生活科学科	1	30	
		電子機械科	1	30	工業系
		電気科	1	30	
3	小浜水産高校	海洋科学科	1	30	水産系
		食品工業科	1	30	
		水産経済科	1	30	
		(専攻科)	1	約10)	
計			17	514	



【将来見込み：平成36年度】総定員数450名(普通科：職業科＝40：60)

No.	高校名	学科名	1学年 当たりの 学級数	1学級 当たりの 生徒定員	備考
1	若狭高校	普通科	4	30	商業系
		理数科	1	30	
		商業科	1	30	
		情報処理科	1	30	
2	若狭東高校	普通科	1	30	農業系
		産業技術科	1	30	
		生活科学科	1	30	
		電子機械科	1	30	工業系
		電気科	1	30	
3	小浜水産高校	海洋科学科	1	30	水産系
		食品工業科	1	30	
		水産経済科	1	30	
		(専攻科)	1	約10)	
計			15	450	

## VI 今後の水産海洋教育の在り方について

### 1 基本的な考え方

- ・ 水産業の変化（「沢山獲る」から、「海洋環境を守る、水産資源を育てる」へ）に対応した教育体制の充実（栽培漁業、水産加工、流通分野、環境教育、食育の推進等）
- ・ 遠洋漁業従事者育成から沿岸漁業後継者育成へ
- ・ 地域に貢献し、地域が支える学校づくり
- ・ 本県の食文化や地域的環境（県立大学や各種試験場と近接、「御食国」若狭の伝統）を生かした特色ある教育内容の編成

### 2 魅力ある水産海洋教育の在り方

#### （1）基礎的素養の定着

- ・ 生徒の望ましい職業意識・勤労観を育み、将来の社会人としての素養を定着
- ・ 生徒の基礎学力の定着を図るとともに、水産系大学への進学を拡大

#### （2）新たな水産海洋教育の展開

- ・ 地球環境問題、マリンスポーツなどに関する学習
- ・ 農業・工業など、他の専門分野との連携による新しい教育活動の展開（食品加工、漁業機械や海洋調査機器の学習における電気・機械分野等との連携等）
- ・ 「御食国」若狭の伝統ある食文化の継承、商品開発や地元特産品の活用等を通じた新たな食文化の創造

#### （3）関係機関との連携強化

##### ① 地域との連携強化

- ・ 企業との共働による商品開発、販売
- ・ 小中学生の学習機会の提供
- ・ 海洋環境保全活動の推進（アマモの定植活動等）

##### ② 県立大学、試験研究機関（栽培漁業センター、水産試験場）等との連携強化

- ・ 大学教員や研究機関の専門家による授業実施
- ・ 教員の交流による資質・指導力の向上
- ・ 県立大学等との共同研究（サバの養殖等）、研究成果に基づく商品開発（水産高校は、大学の学術・研究と地域の流通・消費市場をつなぐ役割を果たす）

##### ③ 水産海洋交流センターとしての機能

- ・ 大学、企業、地域住民等が参加する研究発表会、イベント等を開催

#### （4）実習船の有効活用

- ・ 生徒主導による、県民・小中学生等の体験航海
- ・ 大学等と連携した海洋調査